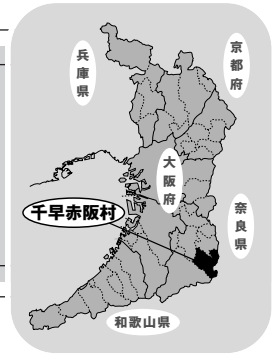


わたしのまちのPR

千早赤阪村編



千早赤阪村は、大阪府の南東部に位置し、西は富田林市、南西は河内長野市、北は河南町、東は金剛山を隔てて奈良県御所市、同五條市と接しています。

村の90%以上を山地、農地が占め、金剛・葛城山脈の主峰金剛山や棚田などに代表される豊かな自然環境が広がっています。

村内に鉄道駅はなく、最寄となる駅は、村の北西約5km付近に近鉄長野線富田林駅、西約5km付近に近鉄長野線及び南海高野線河内長野駅があります。

幹線道路は、国道309号が村を通過しており、平成9年3月には奈良県との府県境に水越トンネルが開通し、平成12年6月には同路線の富田林バイパス(富田林市西板持～河南町神山)が開通しました。このほか、府道富田林五条線が南北に走り、村の西部からの路線として、府道東阪三日市線、府道中津原寺元線があります。

この千早赤阪村の魅力や特色について、総務課参事秘書政策グループの松村さんにお話をお伺いしてきました。



本日はどうぞよろしくお願ひします。

早速ですが、千早赤阪村の歴史を教えてくださいませんか。

よろしくお願ひします。

千早赤阪村は、後醍醐天皇とともに鎌倉幕府に対抗し、千早城で鎌倉幕府軍を迎撃するなどした「大楠公」楠木正成の生誕の地として有名です。

1889年(明治22年)4月1日の町村制施行により、森屋村、水分村、桐山村、二河原辺村、川野辺村が合併して赤阪村が、また、東阪村、吉年村、中津原

村、小吹村、千早村が合併して千早村が、それぞれ発足しました。

1956年(昭和31年)9月30日、千早村と赤阪村が合併し、千早赤阪村が成立しました。

次に、千早赤阪村の名所や旧跡について教えてくださいませんか？

はい。千早赤阪村は自然と歴史の香り高い村として、魅力的な名所がたくさんあります。

まず、棚田です。棚田とは、山の斜面や谷間の傾斜地に階段状につくられている水田のことで、千早赤阪村では、中山間地域の地形を利用して室町時代の古くから形成されてきました。小さいものまで数えれば千枚にも達することから、「千枚田」ともいわれています。

棚田は、優れた自然環境の維持、美しい農村風景の形成、農村文化や伝統の継承、様々な動植物が生息する場など様々な役割を果たしています。

また、棚田からの眺望もすばらしく、東に金剛葛城連山、北西に河内平野を望め、風光明媚でのどかな風景を味わえます。

棚田は、四季折々に様々な表情を見せてくれます。水を引き込んだ春の棚田、早苗が風にそよぐ初夏の棚田、青々として真夏の棚田、黄金色の稲穂が波打つ秋



の棚田、そして雪景色の棚田…。なかでも見ごろは、田植えの済んだ新緑の頃や稲穂が黄金色に色づいて緑とのコントラストが美しい初秋と思われま

す。また、平成21年11月7日、下赤阪の棚田を約2,500本のろうそくで照らす「棚田夢灯り」が開催され、幻想的な風景が広がりました。

下赤阪の棚田は、1999年に農林水産省により『日本の棚田百選』に選ばれたほか、大阪ミュージアム構想のベストセレクションにも選出されています。

次に、大阪で一番高い山、金剛山があげられます。金剛山は奈良県御所市と千早赤阪村の境にある山で、大阪府の最高峰です。村の人たちは金剛山のことを「こごせ」と呼んで親しんでいます。

何種類かのハイキングコースが設定されており、一年を通してたくさんの登山者が訪れ、その数は富士山と争うほどです。

金剛山は、呪術者で修験道の開祖とされている「役行者」が修行した山としても有名です。金剛山はむかし葛城山と呼ばれていましたが、役行者がこの山に金剛山転法輪寺を開いたことから、金剛山と呼ばれるようになりました。

金剛山の山腹には、楠木正成が築城した千早城跡があります。標高660m、三方を谷に囲まれた天然の要塞で、北条軍を相手に100日間籠城したことで知られています。本丸跡には、正成を祀った千早神社があります。

金剛山・葛城山全景



また、金剛山の自然や星空に関する情報拠点、ちはや星と自然のミュージアムがあります。このミュージアムは、自然にやさしい4つのエコ設計（風力発電、木造建築、エコルーフ、バイオトイレ）により建設されています。



ちはや星と自然のミュージアム



このミュージアムでは、口径400mmの反射式天体望遠鏡を擁する星見台があり、昼間は太陽の黒点やプロミネンス、時には金星などを望遠鏡で見ることができます。他にも、金剛山の歴史や自然を映像や音声で紹介するコーナーや学習スペースがあり、金剛山に息づく草花や野鳥、昆虫の写真や標本など豊富な資料を間近で見ることができます。

また、冬季以外の時期には月1～2回、星空観測会が開催されており、とても好評です。

金剛山にある千早城跡だけでなく、千早赤阪村には楠木正成公ゆかりの名所がたくさんあるそうですね。

楠木正成は水分の里で誕生しました。正成が産湯に使ったとされる井戸は、楠公産湯の井戸として今も残っています。

また、誕生地近くには郷土資料館が建てられており、正成にまつわるものも展示されています。

下赤坂城の戦いのあと、楠公が築いたのが千早城、上赤坂城です。上赤坂城の本丸跡からは大阪平野が一望でき、遠く淡路島、明石まで見渡せます。

楠木正成が、後醍醐天皇の勅命を受けて再建したのが建水分神社です。本殿は、春日造の中殿と流造の左右両殿の三殿で構成されており、各殿を渡り廊下で結ぶという、全国で唯一の珍しい様式で作られており、「水分造」とも呼ばれています。1950年に

建水分神社



国の重要文化財の指定を受けました。

楠公没後600年を機に建立された記念塔が奉建塔です。高さは、正成が43歳のときに神戸湊川で自害した年齢にちなみ43尺（約13m）あります。春には桜の花が咲き、花見をする人でにぎわいます。冬には約5万本のスイセンが咲き乱れ、明媚な風景が広がります。1月下旬から2月上旬が見ごろです。

千早赤阪村では、楠木正成ゆかりの地を歩いてまわることのできる「楠公さん足跡めぐりコース」を設定しています。

しかし、残念ながら、楠木正成が千早赤阪村の武将という印象が薄いのが事実です。そこで「千早赤阪楠公史跡保存会」が、楠木正成のイメージキャラクターを募集しています。楠公のかわいいキャラクターで、千早赤阪村を元気にしたいと考えています。

楠木正成を軸にした地域おこしを考えておられるんですね。

次に、千早赤阪村の産業を教えてくださいか。

千早赤阪村の面積の約8割は山林で、田畑を合わせると9割を超えます。ですから、村の産業といえば、昔から農林業が主体となっていました。

農業では、昔から稲とミカンが主な作物でしたが、最近ではナスなどの野菜や花の栽培が稲に取って代わるところも増えています。

豊かな自然の中でのミカン狩りは、千早赤阪村の観光資源としても、大きな役割を果たしています。ミカン園では農家の方との交流もでき、多くの家族連れなどが秋の1日を楽しみます。

村のとれたて野菜は、下赤阪の棚田への進入路手前にある農産物直売所で販売しています。直売所は、地元の農家の方で運営され毎週土・日及び祝日の、4～9月は午前5時から午後3時、10～3月は午前6時から午後3時まで営業しています。村のとれたて野菜や果物、花などが販売されています。小菊、ミカンが売れ筋品目です。

農産物直売所



林業についてしてみると、千早赤阪村、河内長野市、河南町等にまたがる約13,000 haの森林は、約300年の歴史を持つ人工林地帯であり、「河内林業地」と呼ばれています。この人工林から産出されるスギやヒノキは、木目が真っ直ぐ（通直）で、切口が真円に近く（完満）、年輪幅が細かく均一な粘りのある良質材として市場でも高い評価を得ており、京阪神を中心に出荷されています。この木材のよさをもっとアピールし需要を拡大するために、現在「おおさか河内材」の名称で独自のブランド化が進められています。

千早赤阪村には、府内唯一の国産材専門の原木市場「木材共販所」があります。おおさか河内材の流通拠点として、木材の販売や林業相談を行っています。月2回セリ市が開かれるほか、買取販売も行い、府内産材が取引されています。

また、森林は自然保護の象徴的な存在であり、近年の環境に対する関心の高まりを背景に、観光・レクリエーションのためにも役立てられると考えています。

千早赤阪村のまつりや行事について教えてくださいか。

はい。楠木正成が生まれたといわれる4月25日には、建水分神社と楠公誕生地で、また楠木正成が湊



楠公祭



蓮華祭

川の合戦で自刃した5月25日には千早神社で、楠公祭が行われます。

4月25日の楠公祭では、午前には楠公誕生地で奉納舞や、保育園の園児による太鼓の演奏が行われる他、午後には建水分神社で餅まきが行われます。

7月7日には、金剛山の夏山開きを兼ねて夏山の安全祈願の「蓮華祭」が行われます。これは、山伏姿の行者の行列が、山頂の葛木神社から転法輪寺までほら貝を吹きながら歩き、転法輪寺では破魔矢を射たあと護摩を焚いて山を清めるといふ、全国でも珍しい神仏混交のお祭りです。

千早赤阪村の今後のまちづくりの方向を教えてくださいませんか。

河内長野市との合併協議が白紙撤回という結果に終わり、村は単独で行政を進めていくこととなりました。村の現状は厳しいといわざるをえません。限られた財源や人員のなかで、行政職員の意識改革が必要と考えます。これまでの「行政運営」から、民間手法と発想を取り入れ、戦略を定め自立した行政を行う「行政経営」へと転換し、効率的・効果的に行政サービスを提供していきたいと考えております。

地方分権の推進とともに、昨今、住民の間においても自分たちのことは自分たちで考え、地域をいか

に活性化していくのか、地域住民自らがその役割を担っていこうとする機運が高まりつつあります。

ひとつの好例が、平成11年に結成された「下赤阪棚田の会」です。先にも述べたとおり、村の棚田は風光明媚で価値あるものですが、農業従事者の高齢化や後継者不足の中で、厳しい地形特性を持つ棚田の維持管理が難しく、耕作放棄地の増加が懸念されていきました。そのような中、住民発意で棚田保全の機運が高まり、この会が結成されたのです。大阪府の棚田ふるさとファンクラブのボランティアとの協働による棚田の維持管理や保全活動の実施、ボランティアとの年5回の草刈作業、休耕田を利用したジャガイモやサツマイモの値付け、収穫など、棚田の維持管理に取り組んでおられます。

村が、自立した行財政経営を進めていくにあたって、住民と行政の役割分担を明確化した上で、住民と行政が互いに協力し合う住民協働の再構築が求められています。住民参画の推進と情報共有の推進を目指して、住民自治によるまちづくりを進めるための基本的なルールや仕組みを定める自治基本条例の制定を検討するなど、「協働」のまちづくりを推進していきたいと考えています。

また、本村のような小規模な自治体が、すべてを単独行政で行うことは困難です。現在、国や大阪府において、地方分権がさらに推し進められています。村として、単独行政を基本としながらも、広域連携を進めていくことが必要不可欠ですので、効率的・効果的な事務事業を進められるように、新たな分野の広域連携を検討しています。

村が単独行政を行っていくうえで、取り組むべき課題がさまざまにあります。緊急性や将来性などを十分に考慮し、選択と集中により、「課題」を「村独自政策」に転換させるなど、逆転の発想により創意工夫し、住民とともに安心・安全、活力あるまちづくりをすすめていきます。

行政・住民が一丸となって安全・安心、活力ある村が実現することを期待しております。

本日はお忙しい中、ありがとうございました。